

## 高等学校グランドデザイン会議第4回第1専門委員会概要

日時：平成19年1月15日（月）

13：30～16：30

場所：県庁北棟 5階B会議室

### <出席者>

豊川委員長 前田副委員長 石山委員 佐井委員 櫻田委員 佐々木委員 古舘委員  
牧野委員

### 開会

#### 司会

それでは、ただ今から「高等学校グランドデザイン会議第4回第1専門委員会」を開会いたします。次第によりまして、事務局から議事録・地区部会意見について報告させていただきます。

#### 報告事項

#### 【事務局が、配付資料に基づき説明】

#### 司会

資料1については、豊川委員長からお願いします。

#### 豊川委員長

それでは、資料1についてですが、第1専門委員会では適正な学校規模を実現するための方策の（イ）統廃合の進め方辺りまで皆さんから意見をいただいておりますが、十分な検討ができていけませんので今日はそれを含めて細部まで詰めたいと思います。この前の検討会議については後で詳しく説明します。

#### 司会

続いて、資料2から資料6までを説明いたします。

#### 【事務局が、配付資料に基づき説明】

#### 司会

それでは協議事項に入りますので、豊川委員長にお願いします。

## 協議事項

### 豊川委員長

12月20日に第3回検討会議が開催されました。概要については資料5のとおりですが、1時間30分くらい話をして、途中で蛇口議長が議長提案を出しました。それが資料4です。我々の議事録を踏まえた上でまとめたという事で、今説明のあったとおりです。議長からの提案については、持ち帰って専門委員会で揉んでくださいという事でした。決定ではありませんし、ここで検討して検討会議へ返すという事になります。この議長提案については、骨格部分ですから非常に大事だと思っていますので、私の感じた事を含めて少しだけ説明を加えたいと思います。また、検討会議に出席された方は後で補足していただければと思います。

まず1の、青森・弘前・八戸については、少なくとも6学級以上の学校規模を標準とする、という案が出されました。突然出されたので検討会議の時には特に異議は無いという感じで、なんとなく過ぎてしまったのですが、後で思い返すと、これは普通高校の事を指しているのであって、全ての高校について6学級という意味ではなかったのではないかと思います。また、「少なくとも」という表現は不要だろうと感じています。また、青森・弘前・八戸の3市で良いのか、3市と他の地区との違いをはっきりさせる必要があるとも思います。市部は市部内、郡部は郡部内で核を定めてその中で統廃合する事を大原則とする、という事ですが、ここでもやはり旧3市の事が確認する必要があります。具体的には浪岡高校は3学級ですが青森市として扱うのか、極めて細かに我々は対応する必要があります。青森も弘前も八戸も色々な事があると思います。

それから2の、その他の地区について、少なくとも4学級以上の学校規模を標準とし、かつ現在5～6学級以上の学校についてはその数を極力維持する、という提案ですが、「極力維持する」というのはどうなのかと思います。極力と言っても、はっきり言って無理だろうという前提がある訳です。例えば西北地区において、平成20年度には木造高校は6学級ですが、25年度、30年度と進む中で6学級を維持できるのでしょうか。上から押し潰して4学級にするのではなく、逆に5～6学級規模の高校への方向、という事ですが、今の段階でそういう方向性を出すのは簡単なのですが、私は県立高校は重要だと考えていますから、バラ色の方向性だけでなく現実はこちらであるというしっかりした案を出さなければならないと思います。

次に3の、例外として他高校へ通学が困難な地域・高校については次の指針を定めるが、現実対応としては、県教育委員会と各地域との話し合いに基づく総合判断とする、という提案ですが、非常に難しい所だと思います。通学時間や交通機関について、どのように配慮するかという事になると思います。(イ)地域との密着度が特に高くコミュニティ立・住民立と言える状況にある学校については、2学級以上は当面維持する、(ロ)2学級未満となった場合には、交通の便が確保されかつ家庭に過度の負担にならないシ

STEM確立を前提に、統廃合の検討を行うものとする、とあります。地域との密着度等色々あるかもしれませんが、郷土芸能などを前面に出して高校教育ができるのでしょうか。高校教育の理念を考えると、それとは別だと考えています。家庭の過度の負担についても、高校教育と過度というのも微妙な感じですが、これもここではっきりと出さなければならぬと思います。やはり色々見てみますと、少しきつい事を言うようですが、高校教育とは何ぞや、という点が抜けているのではないかとも思う訳です。また、文言では若干直す箇所もあると思います。

4の、統廃合の組み合わせについてが、今日の協議の中心になるかもしれませんが。スケジュールから言っても、統廃合についてあそこの高校を無くする、という所まで行かなければと考えています。

私見を挟んで話しましたが、こういう厳しい意見は検討会議で出ませんでしたので、1つの話題提供として考えて欲しい部分です。

#### 前田副委員長

検討会議の場で急に議長から資料が出されたものですから、私も少し困惑しました。私が発言した事は、前にこの委員会で出された、遠方から通学する生徒に対して支援をしなければならないのではないかという事について、統廃合する前であっても遠方から下宿している生徒やタクシー等を手配して通学している生徒もいる中で、これから統廃合した事によって遠方から通う生徒が出てきた場合にその生徒だけに支援をする事になると、今まで支援をしていなかった生徒にも支援をしなければならなくなる、という話が出ましたので、その確認をしておきました。ある程度のシステムは確認しながらも、県教育委員会や誰かがカバーしなければならないとなったら経済的にも大変です。もう1つは、高校が義務教育ではないという事も確認しながら話し合うべきではないか、という発言をしました。

#### A委員

特に記憶にあるのは、地域の密着度が高く、という項目です。今年から、小学校、中学校、高校、大学の連携についての会議が開催されています。その会議では、郡部の学校は多様な生徒を抱えていて多様な教育課程を組んでいるが、このままの人員配置では立ちゆかなくなるそうです。その時に、高等学校間だけの連携では他町村にあるので距離的に離れているという場合が多く教員同士の助け合いが不可能なので、管轄が異なるが同じ地区の小・中学校と高等学校の教員がお互いに融通できる範囲で助け合って行かなければ、連携は成り立たないだろうという事が出ています。そういう意味で、コミュニティ立、住民立と言えるような密着性があり、垣根を無くして子ども達を地域で育てて行くような高校は残す、という事は非常に賛成である、という発言をしました。

#### 豊川委員長

そういう事で、議長案について話し合いたいと思いますが、まず3市についてです。市町村合併で市は増えましたけれども、旧3市とそれ以外という分け方についてはどうでしょうか。6学級以上、というのは普通高校の事だと思いますが、職業高校等全てを含むという事ではなかったような気がします。

#### A 委員

それは違うと思います。専門高校がそのまま1つの科を1学級で設定すると、絶対に学級減に対応できません。ですから、後から出ると思いますが、専門高校は括り募集が先ではないかと思います。括り募集にして学級数を減らして行かなければならないと思います。学級数を減らすのは普通科だけでは絶対に無理ですから、そういう意味だと思います。

#### 豊川委員長

そうですね。それから、市部、郡部はそれぞれの中で統廃合して行くというのは、これは今までもそういう方向だったと思います。市部も並行してちゃんとやるという事で、それもよろしいですね。

#### B 委員

市部という文言についてですが、以前に行政区画と言いますか、教育事務所単位で検討するという話をしたのですが、これではあくまでも市部は市部と限定になってしまいますよね。市部を旧3市と捉えるのならまた別ですが、どう捉えるのでしょうか。残りには残りで勝手に考えて、という事なのではないでしょうか。

#### 豊川委員長

市部とは旧3市の事だと思っていました。

#### 前田副委員長

旧3市という意味だと思います。

#### B 委員

それでは、東青地区ではなく青森市と考えるのですね。

#### 豊川委員長

どうですか。皆さん。

#### B 委員

文言を精査しないと先へは進めません。

事務局

おそらく、市部の学校を残すために郡部の学校を無くするという事はするべきではない、という意図だと思います。市部という括りを考えた時に、1つの行政区域の中で統廃合できるのであればその中で市部、郡部に配慮して進めれば良いという事だと思います。

豊川委員長

そのような所だと思います。それでは、やはり行政区画で考えるという事ですか。

C委員

やはり旧3市という事でしょう。

豊川委員長

ここでの市部とは、旧3市という事でいいですね。そういう前提で話を進めて行きます。

C委員

旧3市で6学級以上という事は、普通高校だけですか。専門高校も含めるのではないですか。

事務局

確かに、そういう課題もあるのではないかという話もありましたが、その場で答えは出ていません。

D委員

工業高校や商業高校は学科の再編が関わってくるので、なかなか学級数についてはここでは考えにくい所があると思います。

C委員

括り募集になったとしても、1学年は6学級以上という事になるのでしょうか。

事務局

八戸商業高校は4学級です。

B委員

第1専門委員会で職業高校の学級数をある程度定めて、それを第2専門委員会で検討

してもらい、その中で学科再編が出て来るのではないかと思います。そういうシステムだったと捉えています。ですから、仮に青森工業高校が1学級35人で6学級が望ましいという意見を出して、それを第2専門委員会で括り募集がいいのか従来どおりの学科別募集がいいのか、という事で検討するものだと思います。

豊川委員長

配置や規模は第1専門委員会で決めるので、そこまでは出さないと駄目です。今日は本当は数まで行きたいのです。それで方向性を出して、後は第2専門委員会で決めると思います。

C委員

普通高校のみ、専門高校のみ、という意味ではないと思います。全ての高校ですよ。

豊川委員長

その所の所は我々で方向を決めれば良い事です。やはり3市は全ての高校について6学級以上、という事で良いと思います。

C委員

「少なくとも」はなくても良いですね。

豊川委員長

そうですね。

C委員

教育事務所単位とか、旧3市とかをはっきりさせないと話が進まないです。東青地区と言っても平内や今別もある訳ですし。

豊川委員長

今日の資料は、各地区でどれだけの学級数が維持できるかという参考になると思います。それでは、3市というのは旧3市という事にしますが、市部の学級数については八戸商業高校の事もありますが、専門高校も6学級以上というのは何か意味があるのですか。実際にはむしろ多くて8学級の学校もあるのに、6学級以上とするのには意味があるのでしょうか。蛇口議長は、普通高校が頭にあつたのではないのでしょうか。

B委員

旧3市の職業高校で6学級以上が維持できるかを見ると、八戸商業高校や八戸水産高校、長い目で見れば青森商業高校等も苦しいと思います。蛇口議長も普通高校を前提と

して、そういう提案が出てきたのではないかと思います。

豊川委員長

要はここで決めればいいので、普通高校を中心にして、職業高校は別に考えるという事でもいいのではないのでしょうか。

B委員

そうですね。6学級をベースにしながら考える、という事でいいのではないですか。

C委員

前の時は市部では4～8学級という事でしたからね。八戸商業高校や八戸水産高校等は6学級は無い訳ですから、普通高校と専門高校を合わせて一応6学級でいいのではないかと思います。1つしかない八戸水産高校を6学級や8学級にしる、というのは無理な話ですから。

B委員

現在6学級の専門高校が、今後少子化が進む中で引き続き6学級を維持するというのでは、矛盾が生じるのではないですか。

C委員

歴史的に既に少ない所は別として、一応旧3市の場合は6学級以上という事でいいのではないのでしょうか。

豊川委員長

少ない所もありますが、そこはそれでいいという事ですね。

C委員

そうですね。

豊川委員長

それではそういう事で進めます。その他の地区については4学級以上で、5～6学級の高校は維持する、という所ですが、これは不要ではないかと思います。2,700人も生徒数が減るという事を前提にしている訳ですから、5～6学級を維持するというのはそもそも難しい訳です。むしろ、下げる方向に行かないと合わないので、これは無理ではないかと思います。上から押し潰そうが押し潰すまいが、4学級を標準とするという事で良いのではないのでしょうか。

C 委員

それで良いのではないですか。

B 委員

我々が検討したものが3～4学級で、4学級が重なっているのです、それを基準にしてもらっていいのではないのでしょうか。

豊川委員長

そうならざるをえないですね。では、次に行きます。例外を認めるという所です。色々な状況によって最後は県教育委員会が、という事です。具体的に対応する方策については、ここで我々が考える事ではなく、むしろ県教育委員会で考える事だと思います。

前田副委員長

県教育委員会が考えるというよりは、この委員会の中で、こういう方向性が良いのではないかという意見は付けて行くべきではないかと思います。

B 委員

(口)については、もうこの前専門委員会として議論は終わっていますよね。

前田副委員長

どうしても必要だという所については、たとえ学級数が少なくても地域と相談して行く、という事になっていましたよね。

C 委員

考え方として、旧3市があって、その他という表現は少し一段落ちたような感じがします。また、その次に例外というのがあると、同じ県の中での表現の仕方としてはまずいと思います。やはり、3市以外の地区とかが良いと思います。例外はたくさんある訳ですから、表現はもう少し考えるべきです。やはり、もう少し同じ視点で考えなくてはいいけません。

豊川委員長

そうですね。表現としては無理があるかもしれません。それでは、(イ)についてはいかがでしょうか。

E 委員

これも前の会議の時に議論したと思いますので、これで良いと思います。これは無くてもならない項目だと考えています。



## B 委員

コミュニティ立、住民立という言葉は初めて聞きましたが、これはなじめません。色々な解釈の仕方もあります。

## 前田副委員長

そうですね。

## C 委員

あくまでも高校は県立である訳ですから、コミュニティで作っている訳でもなければ、住民で作っている訳でもありません。そういうように、密着度があるという意味だろうと見ています。

## 豊川委員長

検討会議において特に異議は無かったのですが、私は少し考えていて、本当にそれでいいのかという気がしていました。地域がきちんとサポートして高校生を集める事ができる、という理由で2学級分を集めて本当にやって行けるのですか。高校教育という視点から見ると無理があるのではないかと思うのです。そういう生徒がどうなるのかは分かりませんが、高校教育の理念というものが第一にあると思うのですが。

## 前田副委員長

しかし、理念はあるでしょうけれども、地域や子ども達からの要望がある場合は認めて行かない限りは、大きい学校ばかりになってしまい、2学級以下の学校は全部統廃合という事になってしまいます。ですが、どうしても生徒が集まらなくて色々できない事が出てきた場合は、その時にまた考える、という考え方ではないでしょうか。やはり残しておかなくてはまずいでしょう。

## 豊川委員長

それは2学級が基準になっているのですよね。

## B 委員

一部の地域かと思いますが、それが前提ですよね。

## C 委員

実際に平成20年度にも3学級規模という学校は8校ありますし、2学級以下という学校は18校ある訳ですから、当然そのような事が出て来ますので、そこは残しておかなくてはいけないと思います。密着度という意味ではなくて、やはりそれしか子どもが

いなくて仕方なく2学級になっている訳ですし、地理的にも市部から遠いという事で残さなくてはいけない学校もあるでしょう。そういう実態が本県の特徴だと思います。2学級×3学年で6学級ですから、今でも充分ありえる学校なので、将来もっと少子化が進んで4学級が2学級になってくる可能性もある訳ですから、それくらいは必要なのではないでしょうか。

#### B 委員

密着度というのは測りづらい尺度ですね。

#### 豊川委員長

神楽等の郷土芸能とかは違うのではないかと思います。誤解の無いようにしたいと思います。

#### E 委員

この委員会の立場として、この項目は残しておかなければならないと思います。これを削ってしまうと、人がいなくなったら全て画一的にやるという事になって、教育の機会均等や大義名分に対応できなくなりますので、現実的にどうなるかは別にしても、文章としては残しておくべきではないかと思います。

#### 前田副委員長

地域の芸能とか、そういうものだけを密着度というように連想されるとすると、密着度という言葉は工夫しなければならないと思います。

#### B 委員

密着度とは何かという事について明確にしなくてははいけません。

#### 豊川委員長

そういう意味では(ロ)もありますし、(イ)と(ロ)を上手に使えばおかしくはないですね。それでは、ここでは3番目は議論したという事にします。

そこで4番目の統廃合の組み合わせについてです。(ハ)(ニ)(ホ)とありますが、蛇口議長は別に何でも一緒にできるのではないかという感じでした。要するに統合という事になりますが、統廃合の仕方としてどうですか。何と何が統合しやすいとかは本当にあるのですか。

#### C 委員

やはり簡単に言うと、地理的に近いかという事になるのでしょうか。

## B 委員

どの専門高校も施設・設備は必要ですので、新しい校舎が建たなければ統合は難しいと思います。例えば、工業高校に農業科が来たとしても、工業高校に農場は無いのですから。

## 豊川委員長

それは分かりますが、統廃合が前提になる訳ですから、そこを何とか旨くできないのかと思います。できないで済ませる訳にもいきませんので、理屈は分かりますが、どうすれば良いかという事になる訳です。

## A 委員

現実的にここにある学級数をどう削減して行くかという時には、是非触れなくてはならない部分だと思います。そうでなければ、普通科だけをどんどん減らして行くのであれば、青森市内で言えば、後は大規模校を潰さない限りは満たされないのです。金銭的な問題はあるでしょうが、どこかで踏み出さなくてははいけません。

## B 委員

現状のまま置いておくのではなく、学級減で対応できる所は対応できるように、遠い将来に廃校になる所はなるでしょうし、それで形になるのではと思います。

## A 委員

例えば東青地区では、10年間で1学級40人で10学級減らすのです。1学級35人になるともっと減らさなければならないという事になりますから、大規模校を廃校とするか、どこかとどこかを合わせるかして行かないと、十数学級減らすのは現実的に無理なのです。今までの枠の中では不可能だと思います。

## 豊川委員長

ですから、自然に無くなるのを待つという事であればそれで良いのですが、現実はそのもいかない訳ですから。

## B 委員

ですから、ここである程度揉んでもらえばいいのかなと思います。

## 前田副委員長

遠い将来としては、そういう専門高校を新しく建設して設備も新しくして統合して行く、という事も考えられない訳ではないですね。

豊川委員長

具体的にはそういう事になるでしょう。

C委員

市部は校種を超えてやれると思いますが、ここが1番でここが2番という事ではなく、こういう組み合わせもありますよ、という事でいいのではないのでしょうか。要するに、大きい学校が小さい学校を吸収する事になるのでしょうか、伝統のある学校がそうでない学校を吸収する事になる、という流れの中で決まって行くのでしょうか。2つの学校を無くして別に1つの学校を作るというのは話が別になるので置いておいて、今ある中での組み合わせという事でしょうか、ある程度こんな組み合わせがありますよ、ぐらいで良いのではないのでしょうか。それぞれ状況が違うと思います。

豊川委員長

それが蛇口議長の提案です。

C委員

色々な組み合わせは出てくると思います。というのは、どう考えても総合学科の高校が近くにあれば、小さい学校や商業を中心にやっている高校等は結び付けやすい訳ですし、やはりその土地土地の状況に左右されるものだと思います。ここが1番でここが2番、という訳にはいかないと思います。組み合わせは色々考えられます、という事で、後は表現の仕方ではないかと思います。

豊川委員長

具体的にこの地域は何学級減らさなければならぬ、という事になるものですから。

C委員

ここでは、地区の統廃合についてそこまで求めているのですか。

事務局

配布資料の各地区の状況を見ながら議論する中で、具体的な組み合わせの話も出てくる可能性もあるとは思っていますが、各地区毎に具体的な名前までを出す事もできないと思います。アイデアとしては出していただいてもいいと思います。

蛇口議長案の1～3が第1専門委員会に関する項目なのですが、進めて行くためには総合高校だからどうかという事ではなく、あらゆるパターンの組み合わせを考えなければ学級減を実現できないのではないかと、というのが趣旨だと思います。そこで、地区毎に検証して行く上で、そのような場面も場合によっては出てくるであろうという事です。

豊川委員長

地域から何かありませんか。

F 委員

民間ですので発言しにくいです。どことどこをくっつけると言われても、はっきりとは分かりません。

豊川委員長

他に意見はありませんか。3までは大体いいのですが、4については難しいですね。我々が高校の特徴まで話す必要も無いと思うのですが、ある程度は念頭に置いておかないと案が出せません。

E 委員

(八)については現実的で良いと思います。(二)についてはこの委員会でも何度か話題になっていますが、異なる職業高校の統廃合は現実的ではなく、難しいものがあるという話がありました。しかし、後10年しか無いとなった時に、異なる専門学科の統廃合をした場合には全く新しい学校になってしまう事から、これから入学して来る生徒達に果たしてどれだけ浸透して行くのか非常に不安があります。話としてはあるのかもしれませんが現実を考えた場合、商業と農業、工業と農業といった組み合わせについてはもう少し議論する必要があると思います。

B 委員

総合高校のようになるのですかね。

E 委員

そうですね。

豊川委員長

産業高校のような形なのでしょう。これまでの商業高校とか農業高校とかではなく、総合学科みたいな学校でしょうか。

E 委員

さらに付け加えれば、生徒がどの高校へ行くのかという時に、例えば八戸商業高校と八戸工業高校が一緒になった時には、決して単純に商業と工業が合わされた学校にはならない訳で、全く新しいものになってしまいます。そういうものをいきなりくっつけた時に、その高校の軸を中学校の先生方や子ども達はどのように考えるのでしょうか。(二)

については、考えがまとまりません。

#### B 委員

総合高校になると、他県を見てもカリキュラムの関係上、専門性がかなり薄くなります。例えば工業と商業が一緒になるとすると、専門科目の総枠が減って行くマイナス面を考慮しないとイケません。勿論プラス面もあるでしょうけど、そのマイナス面を果たして補えるのだろうかという疑問があります。

#### 豊川委員長

これは、難しい問題ですね。

#### F 委員

大学みたいですね。

#### 豊川委員長

(二)と(ホ)は駄目だという感じがすると言うか、もう少し皆さんから意見を伺う必要があるでしょう。

#### D 委員

1を踏まえると、今ある職業高校についても6学級を目指す、確保するという前提になるのですが、現実に子どもの数は減る訳ですからそうはならないのです。難しいですよ。

#### 豊川委員長

旧3市だって、どこかを無くさなければ無理でしょう。

#### A 委員

ですから、括り募集をやらなければ、現実的には学級減に対応できないのです。

#### B 委員

青森工業高校は現在8学級ですが、2学級減らして6学級となる訳です。八戸工業高校も弘前工業高校もそうですし、この案で工業高校は6学級となる訳です。

#### 豊川委員長

工業高校は全部8学級あるのですか。

#### B 委員

そうです。ですから、最終的にはそこに落ち着いて行くと思います。

豊川委員長

3市の大きな高校は学級数を減らすだけであれば残ります。しかし、全体で見ると学校数を減らさなければいけないと思います。第1専門委員会ではどこまで話しをすれば良いのかなと思いますけれども。

C委員

統廃合する手段として普通高校と普通高校だけではなく、普通高校と専門高校という組み合わせもあるという形を出すだけで、具体的な事は不要だと思います。(二)になると、専門的な教育課程、学校規模、施設・設備等の問題があり、大都会のような大きな考え方をしなければならぬので本県にはなじまないと思います。

豊川委員長

前にも話がありましたが、本県は職業学科の割合が多いのですが、この辺りについてはどうですか。ここで方向付けする事は必要ですか。

事務局

学科再編と統廃合をして、自然的に対応するという事になっていたと思います。

豊川委員長

職業高校も必要だという意見もありましたが、自然に任せるという事でいいのですか。方向性を出さなくてはいいなような気がします。

前田副委員長

本県の基幹産業に関わる農業高校については、初めから農業高校に行きたくて行っている子はいないので、黙っていれば無くなってしまふ訳です。農家の子ども達でも農業高校に初めから行きたいと思う子はいません。普通高校に行きたいのです。残念ながらそれが実態です。ですから、農業高校を残すとすれば、どこかと組み合わせるしかありません。

豊川委員長

地域性が重要だという事は分かっていますので、最低限残さなくてはいいものはないと思いますが、その組み合わせも程度問題ではないかという気もします。

前田副委員長

確かにそうです。自然の成り行きもあると思いますので無理にくっつけるという事は

無いと思いますが、普通高校は普通高校とだけ、工業高校は工業高校とだけ、と考えてはいけないと思います。(ホ)については、可能であればそういう事も考える、という付け加えだと読み取っていいのではないかと思います。

C 委員

そうですね。

豊川委員長

そうしますと、4については課題や問題が多くて整理できませんが、自然に任せるという事ですか。

C 委員

任せると言うよりは、地域毎の実態に応じた組み合わせは可能だと思います。

豊川委員長

他に意見はありませんか。地域の実態に合わせるというのは確かに問題は無い意見だと思いますが、青森県ならではの高校の姿があるのではないかと思いますので、もう少しきちんと方向付けができれば良いと思います。今まで色々な意見がありましたが、ただ地域にあるものは地域に任せると自然と上手く行くだろうという事が出てきていますが、例えば、津軽地域ではりんごが盛んですが、しかし、産業上は特徴があっても地域では必ずしもどうかという事もあります。この辺りについて、青森県の高校教育はこうあるべきだという意見はありませんか。皆さん専門家ですから何かあると思いますが。ただ単に地域の実情に合わせて自然と上手く行くだろうだけでは、何か少し足りない気がします。しかし、普通高校の希望者が多い事は現実としてありますから、ただ地域に合わせるのではなくて、方向性としてそこは表現して良いですね。青森には職業高校が多くあり、今までの成果や歴史もありますが、現実として普通科志望が多い訳ですから、それについて異議はありませんね。残すものは残す事として。

事務局

前回では、現状の割合は崩さず、統廃合が進む事によって普通科が漸増するという傾向を良しとしましょうという話だったと思います。今の部分の統廃合について結論を出すのはなかなか難しいですが、第2専門委員会の方が、普通科、工業等の専門学科、総合学科の先生方がお集まりになっていますので、そちらに検討をお願いして、検討の結果を第1専門委員会へフィードバックし、第2専門委員会で検討を掘り下げるという事でいかがでしょうか。

豊川委員長



それが一番良いと思います。それが本来の役割ですから。

#### 事務局

第2専門委員会の方がそれらを検討する事となっていますので、この場で結論を出すのは難しいと思います。

#### 豊川委員長

分かりました。それでは校舎制と定時制に入って行きたいと思います。第2次実施計画における校舎制導入後の今後の在り方という事についても、既に話し合いはしたと思います。現実には計画は立てられて実施していますので、その方向で良いのでしょうか。人数が減ると校舎制になるという事です。

#### A委員

校舎制へ移行した後の話については、まだ検討していません。

#### C委員

簡単に言えば、校舎制の後にどのようなルールで廃止に持って行くのか、という事でしょう。

#### 豊川委員長

ルールと言っても、それは応募者数によって決める以外は無いと思います。どんどん減ると廃校にするという事を含めて、意見をいただきたいと思います。この事について、倍率がいくつ以下だと廃校にする、というような原則はありましたか。

#### 事務局

第2次実施計画の中では、来年度及び再来年度に校舎制を実施するという方向性は決まっていますが、それ以降については県教育委員会としては決めていないものですから、今回はその部分の議論をお願いしたいと思います。今後の校舎制の在り方について、各委員の皆さんから意見を事前にいただいておりますので、委員から説明いただきながら進めて行くと、先が見えてくるのではないかと思います。

#### 豊川委員長

それでは、資料について説明してください。

#### D委員

校舎制を実施するにあたって、深浦高校と木造高校等、距離の随分離れている学校もあります。他の方も書いていますが、できるだけ維持して行く事が前提でしようが、定

員の半数に満たない状況が続く場合には、交通条件やその他の事情にもよりますが、基本的には存続できないという結論になって行くと思います。

#### C 委員

やはり一定の年数を決めてという事です。大体は3年くらいかと思いますが、1次募集の段階で半数に満たない場合は、という基準だと思います。他の県を見ても、そのくらいの年数という感じです。割合については、2分の1や5分の3とやっている所があります。今年の1次募集を見ると、校舎制で1学級募集になる学校で1倍を超えている学校が結構ありましたので、中学校の卒業生が多い地区があったのかなと思いました。しかし、将来を見ると、今は何とか40人以上の募集があっても、今後落ちる事が十分に考えられますから。

#### B 委員

数字のトリックがあると思います。前期・後期募集で募集人員が各学校にゆだねられていますので、今の発表では倍率がありそうに見えますが、そういう学校は前期の募集を少なくして後期を多くし、前期を落ちた生徒を後期で救うという形なので当然前期は倍率が出ますので、1倍を切るという見方を基準にすると難しいと思います。去年からほとんど1倍を超えるようになりましたよね。

#### 事務局

1次調査は前期・後期は関係無いのですが、2次調査で比べるとそうです。

#### F 委員

地区部会からお願いされたのですが、心情などで左右されては困りますから、校舎化や統廃合の基準を設定して欲しいという意見がありました。

#### A 委員

資料にあるように、地域との密着性が高いものについては2学級以上を維持するが、これに満たないものはある基準によって統廃合の対象になって行く訳です。この文言を適用するしかないのではないのでしょうか。この会議でも出ましたが、1学級規模では生徒の教育活動が十分でない部分は明らかですので、その辺は適用して行くしかないでしょう。今校舎化になった所だけを特別扱いする訳にもいかないでしょう。

#### D 委員

基準は必要ですが、細かく設定する事は避けた方がいいと思います。

前田副委員長

校舎化という方向性は、委員だけでなく大分浸透しているのではないかと思います。

豊川委員長

まとめてみますと、2学級未満になったら廃止を検討する、おおまかな基準を作る、という2つだと思います。定員の2分の1という意見が出ましたが、それではかなり甘い感じがします。5分の3という意見もありましたが、ここでは甘い方がいいのですかね。実際は先が見えているので、甘くしても結局同じでしょうから。

B委員

校舎化を続けて行く事は結局手詰まりになってしまいます。結局、今の高校が全て存在する事にもなりかねません。

豊川委員長

ずるずる行きますか。

B委員

今の2分の1という基準であれば、ずるずる行くと思います。

C委員

地域の反対が大変で、在校生が1人でもやる例もありますから、やはり基準は決めておかななくては大変だと思います。そういう時代だと思います。校舎化するためにある程度は決めたいと思いますが、色々な動きで曲げられる場合があるのでやはり数字を決めておかななくてははいけません。

B委員

2回目辺りで言ったと思うのですが、校舎化には非常に危険性があります。校舎化する事でみんなが生き延びる方策ができるだろうと思います。すると、人員の配置や心への影響や教育活動の私費に関わる部分とかについて、一番最初の高校教育の理念に戻れば理念に反する部分がかかり出てきます。あくまで戻るとという話なので、戻らないで進めるのであれば別です。

豊川委員長

やはり、2分の1くらいでしょうか。事務局の方から見て、数で合わせるともっと厳しくやる必要がありますか。あくまでも1つの原則ですから。

事務局

3年連続2分の1を割るという事になるとなかなか難しいと思います。第1志望とい

う事で本当に行きたい子供の数という事であれば若干少ないとは思いますが、3年連続2分の1というのはハードルが低いと言いますか。地域に配慮したと言いますか。

豊川委員長

もう少しきついハードルをとという事ですが、ここでは一応決めてかまわないと思いません。5分の3という意見もありましたがどうですか。

F 委員

上北・三八地区部会では大幅な統廃合は賛成だそうです。念を押したのですが、やはり統廃合は仕方がないのでみんなが納得するような基準を設けて欲しいそうです。

豊川委員長

今回はハードルを決めてみたいと思いますが、いかがですか。

C 委員

他県の例を調べてはどうでしょう。

事務局

参考までですが、平成11年に出された前回の諮問に対する報告の中で学校規模という項目があります。その中での表現は、本校については学級編制上1学年2学級を維持できない状態が3年続き、かつその後も入学者の増加が見込まれない場合には分校化、或いは統合について検討する必要がある、という表現をしています。実際にはこの答申を受けて2次計画の中で校舎化、この答申の中では分校ですが、実際には校舎化という事になりました。基準としては前回も入っていますが、この辺の表現が適切かどうかは別としても、新たな答申の中でどういう表現にするのかが1つの議論になると思います。

他県の状況について見てみましたが、北海道では、1学年が2年連続20人未満、宮城県では、分校の再編基準として収容定員の3分の2未満かつ8名に満たない状態が2年連続、という事です。自治体によってまちまちだと思います。

A 委員

福島県では、3年連続で募集定員の2分の1です。

豊川委員長

募集定員ですか。

A 委員

募集定員です。

豊川委員長

この辺はどうしたらいいでしょうか。

C 委員

この場は一応具体的な数字を出した方がいいかどうかという場ですので、まず具体的にどういう数字がいいのかを決めた方がいいと思います。

豊川委員長

条件を付けるのは問題無いですが、後は数字をどうするのか、文言をどうするのかです。

A 委員

数字を決めてしまうと運用が決められてしまいます。それに代わる何かいい文言が無いでしょうか。例えば2分の1とした場合に、少しでも2分の1を超えたとなる事もあります。

豊川委員長

そうですね

F 委員

1人でも超えたは超えたですから、無理矢理押し込むかもしれません。

C 委員

しかし、数字が出ていないといざ地元とやり合う場合に勝てないと思いますので、やはり決めた方がいいのではないのでしょうか。努力する学校は努力すればいい訳です。倍率を上げればいい訳ですから、特色を出し、地域に認知されるよう競争し切磋琢磨すればいいのです。大規模校には無い魅力がある展開をすとか、高校間競争と言いますが、ある程度は切磋琢磨する世界があってもいいと思います。そう考えると、やはり数字は決めた方がやりやすいでしょう。

B 委員

先程古舘委員が地元の方から言われたのは、数字が欲しいという事でしたよね。

F 委員

そうです。人を介して地域の人達の陳情が行われる恐れがありますので、不公平を無くするためにも基準があった方がいいです。

#### 前田副委員長

地域の人が政治的な事をしてしまう事がありますから、やはりそれをは阻止しないと  
いけません。それは必ずしも地域の総意ではない事もたくさんありますから。

#### C委員

小さい学校でも頑張っている学校はたくさんありますし、そういう学校は去年から応募  
者数が増えていたりします。それは、やはり努力するからだと思います。学校訪問し  
て学校の特色を中学校に説明したり、それは良い事だと思います。

#### 豊川委員長

青森県では青森県に相応しい数を決めた方がいいのでしょうか。地域によって違いは  
あるのでしょうか。

#### 事務局

教育委員会としても2次計画の中で校舎化を決めましたが、それは校舎化にしたから  
とって廃校の道を作ったという意味ではない訳です。そこを理解していただけるよう  
な表現でなければいけません。必ずしも校舎化したから将来的には廃校という事ではあ  
りません。

#### C委員

県民は校舎化した事によって、時間と共に廃校になるのではないかという危機意識を  
持っています。ですから、学校が頑張れば残りますよという事は検討していいと思いま  
す。しかし、どういう形になるのかは分かりませんが、2分の1とか、これが限界だと思  
われるある程度の数字を出さなくてはいけません。ずるずるとなりますので。やはり  
少々時間がかかるかもしれませんが、思い切ってこの程度でどうかという数字を決めて  
いいのかなという気はします。

#### 事務局

第2次実施計画の段階では、地元からという表現をずっと使っています。他の地域か  
らどんどん子供を入れる事によって維持するのではなく、やはりそういう意味では蛇口  
議長の地域に根差したという視点は意味があると思います。その地域が必要として、地  
域の子供が入る事で状況が変わるのであれば校舎制の導入も先送りという話をしてい  
るのであって、ただ数が入ればいとしているものではありません。岩手県では、分校につ  
いて、分校の所在地の中学校からの子供が半数、という前置きがあるようです。青森県  
が同じように書くという事はありませんし、先生方の方でどう捉えるかなのですが、こ  
れから学級減して行く中で、市部の学校を減らすと郡部の学校にもそれなりに子どもが

入って行くだろうとは思いますが、青森市の子供が大分入っているのに、それが本当に地域の学校と言えるのでしょうか。第2次実施計画では、校舎制の導入にあたって地元という考え方でありましたので、そこをこれからどうするかだと思います。

豊川委員長

地元からの比率については50%ですか。

事務局

岩手県は50%ですが、第2次実施計画を立てる時には、地元からの比率について具体的な数字は出していません。

C委員

宮城県も、地元からの入学者が3割に満たない場合、と出ています。しかし、場所によって地元とは何だとなると、1km離れるだけで地元でないとなる事もあるので難しいです。全県一区になっている訳ですから、そういう意識に立って考えないと駄目なのでしょう。

豊川委員長

やはり地元は意味が無いですね。全県一区ですから。

C委員

バスで15分くらいであれば、地元から違う地区に行くという事はたくさんある訳ですから。

豊川委員長

そこは文章である程度は表せるとしても、青森県に相応しい数値を出すべきかどうか問題です。他県では色々出しているようですが、青森県も数字は出せますか。

C委員

出さない訳にはいかないでしょう。

豊川委員長

何かありませんか。事務局は何かありますか。

C委員

分かりやすく、2分の1で2~3年間でどうでしょう。

B 委員

地元というのはどこを地元と言うのですか。全県一区ではなく、例えば市内から流れて来る生徒もいると聞いています。周辺地域から入って来るのです。

豊川委員長

通学できるので、関係ないと思います。大間高校や田子高校は別かもしれませんが。

C 委員

地域によって違うのです。地元が無いと困る所もあるし、上北地区のように比較的近隣にある所もあります。

B 委員

三八地区は八戸と三戸郡に分けて考えられますが、上北が一番考えづらい気がします。

C 委員

地域と市内で、数でいった方がいい感じがします。

豊川委員長

事務局から何かありますか。甘いという意見もありますが。

事務局

我々に案がある訳ではありませんので。

豊川委員長

先程の第2次実施計画の文言を使うと良いと思います。

事務局

先程の第2次実施計画での、地元という考え方は旧行政区域の中でと考えていますが、今後どう考えるかは分かりません。また、数字となりますと、これは我々としてもどれくらいにするかは分かりません。

豊川委員長

2年という意見もありましたが、やはり3年ですかね。別に今はっきり決めなくてもいいですが、ここで一応決めておいて後で考えましょう。2分の1で3年にしておきますか。

C 委員



先程は分かりやすいように言いましたが、3年間の内に1年だけ頑張っただけで2分の1を超えるようにするという事も考えられるので、3年を2年にするという事もあるかもしれません。

B 委員

優しいハードルで地域住民には非常に聞きやすい話ですが、突っつかれると条件に合致していないではないかと言われるかもしれません。

豊川委員長

やはり、もう1回集まらなくてはならないと思いますので、その時に話しましょう。一応今日は話を切ります。

B 委員

数字だけ出すという事ですか。

豊川委員長

数字だけを出します。

C 委員

実際無くするとなると大変な苦勞があります。色々な話が出ますし、聞けばそれだけもっともだという意見もあります。やはりある程度は客観的と言いますか、出された数字に基づいてやるという事が大事だと思います。

豊川委員長

そういう事で、2学級未満の学校で2分の1という話がありました。そろそろ休憩にしたいと思います。

~~~~~ 休 憩 ~~~~~

豊川委員長

定時制関係について皆さんの意見を聞きたいと思います。

D 委員

結局は校舎化になって潰れて行く事が予想されます。魅力ある学校づくりが1学級規模でできるのかという疑問があります。ですから、できれば2学級規模までの間に、学

校として頑張りを見せて欲しいのです。結果的には校舎化に至る場合もあるでしょうが、そうでない活気ある方向に向かって欲しいと思います。ただ、例えば今別校舎のように冬の期間はなかなか青森市に通いきれない生徒がいる場所など様々な事情がありますので、校舎制を全部否定する訳ではありませんが、基本的には校舎化ではなくて、2学級の時点で地域性を考えてどういう方向性がいいのかを考えて欲しいです。

#### B 委員

前にも話しましたし、今の意見に同感です。

#### F 委員

教員数の揃った一定規模の学校で切磋琢磨した方がいい、という事で、やはり本校で学んだ方がいいと考えます。

#### C 委員

D委員が言っていた辺りが一番いいのではないのでしょうか。青森県の場合は半島を2つ抱えていますので他所から入り込む余地はない訳で、やはりそこしか行けないという問題が地理的にある訳ですから、そういう特性を十分確保し、そういう道を造っておかないとまずい気がします。

#### A 委員

D委員と同じです。あるいは、特色を出して頑張ってもらうしかないだろうと思っています。

#### 豊川委員長

皆さんの意見を聞くと、特殊な所は別として、後は校舎化は考えずに校舎化になる前に頑張る、という事だと思います。または、校舎化になる前に統合するという事になると思いますが、それが大意だと思います。

次は定時制の統廃合についてですが、昔の定時制とは状況が違うという事が分かってきましたが、もう少し意見をいただきたいです。

#### 前田副委員長

最初の不登校対策だけではない事は確かです。そのような形だけではなくて、本当にその学校が必要とする機能を取り入れるべきではないのでしょうか。定時制高校そのものが無くなるという訳ではないでしょうか。定時制高校同士で統合できる所であれば、どなたかの意見にありましたが、例えば中南地区で言えば黒石高校の定時制と尾上総合高校は近い場所にあるから統合するとか、そういう形ができないかという事は考えて行かなくてははいけません。是非、多様な生き方の子ども達を支えて行くという点で考えて

ください。

#### D 委員

かつての勤労学生の時代と違って、今の定時制高校には様々な状況を持つ子ども達が学んでいます。生活スタイルも多様です。例えば、午前部に通って午後からアルバイトをする、朝はゆっくりして午後部に通う、昼に仕事を持って夜間部に通う等、色々な時間の持ち方をしています。それから、中学校までの経験からどうしても大きな集団に馴染めず、小さい所だと定時制高校を選ぶ生徒もいます。定時制高校の県内全域かけての再編については、概ね適正な配置になっているのではないかと思います。3部制の各地での実施を考えると、弘前高校・黒石高校・尾上総合高校の間での3部制の実施を含めた再編が必要だと思えます。

また、夜間定時制の生徒が通信制を使って3年で卒業する、3修制にかつては多くの生徒達が取り組んでいたのですが、この頃は希望しない生徒がむしろ多くなってきています。ゆっくり勉強したいと、4年間で卒業する事を選ぶ生徒が多くなってきています。一方、3部制の中の午前部の生徒の中には、午後部の授業を使って3年で卒業を目指す生徒もいたり、子ども達の考えが本当に掴みにくく、1人1人違う自分の時計を持っています。様々な事情を抱えていて、全日制課程の生徒とはまた違った部分があります。

#### B 委員

事務局に伺いたいのですが、新聞で志望倍率を見た所、定時制高校の第1志望がかなりの人数なのですが、全日制高校の不合格者の集まりになっているくらいがあると思えます。今はできませんが、昔ですと2次募集で集まってくるのです。そういう事もあって、全日制高校を落ちた子が定時制高校に行くという感じで存在するなら、それは間違いではないかと思います。本来は働きながら学ぶというスタイルのはずなのですが、色々な調査を見ると、最近はアルバイトでもさえも働きながら学ぶ子が少ないという事もあります。そういう事もあります。適正配置をしながら、色々な条件の子がいるので残さざるをえない、という事になると思えます。

#### A 委員

工業教育は別枠でいいですよ。

#### B 委員

工業の定時制については別枠です。要するに、色々な面接もしますが、教室で座っているだけは嫌だし全日制高校も落ちたし、だから工業の定時制高校に行こうかという入り口の部分で非常に合致していないのです。工業技術科1学級に再編成されているのですが、就職先も全日制優先で学んだものを活かせる職場には全く行けない状態です。高校長協会の意見の最後にそういう文が出てきていますので、それが私の意見に合致する

と思います。青森市、弘前市、八戸市に定時制専門高校がありますし、定時制普通高校を希望するのであれば北斗高校、八戸中央高校、尾上総合高校へ行って高卒資格を得る、という形で良いのではないのでしょうか。

#### F 委員

認識として、経済的な問題から働きながら学ぶのが定時制高校だと思っていました。現場は分からないのですが、第2専門委員会の議事録を読むと不登校の子ども達のケースが今は多いそうです。また、地区部会で聞いた所では大工をしている方が同じ技術部門ではなくIT等の違う分野を学び自分で工務店を開くとか、そういう方も定時制高校にチャレンジして来ているので、定時制高校は残して欲しいと言われました。

#### B 委員

それは特殊な例です。高校を終わって、その上に専攻科という高校を卒業した人が入る2年間のコースがあるのです。そこには工務店等の商売をやっているが専門知識が不足してるので、普通教科ではなく、電気なら電気、機械なら機械だけを学びたい、という人が来ています。それが定時制にあるので、きっと専攻科の方の話ではないかと思います。

#### 事務局

工業高校に制度上の専攻科は無いのですが。

#### B 委員

専攻科ではありませんでしたか。私がいた3年前には、十数年ずっと続いてやってきました。県の方が来て良く分からないと言うので、県教育委員会との取決書を探してこれで作っていると説明すると、納得して皆さん帰りました。普通教科をやらないで、専門教科だけをやるコースがあるのです。

#### C 委員

日本の教育制度の中で一番いいと思うのは定時制や通信制で、こんなに柔軟な制度を持つのは世界で日本しかないのではないかといつも思っています。義務教育は単線型ですし、全日制高校は全日制高校だけの話ですが、定時制や通信制は非常に柔軟な制度です。昭和30年代に通信教育規定や施行規則を作って定通併習ができるようになった訳ですが、戦後まもなく本当に素晴らしい制度を作ったと関心しています。しかし、定時制や通信制は、実務代替、技能連携、技能審査、大検等の色々なシステムがあるのですが、今の学校は使い切っていないと言いますか、独自の素晴らしいシステムがあり、その役割が規則の中で決められているのに、定時制高校を亜流的に捉えて全日制高校に近づけようとする意識があまりにあり過ぎて、定時制高校の特徴が活かされていないと

いう不満があります。もう1度その役割を見直して行く必要があるのではないか、という感じがします。勤労青年を預かっていた昭和20～40年代以降は、色々な問題を抱えた子ども達が入ってくる世界に変わりました。変わった事はいいのです。不登校、家庭、健康など様々な事情がある子ども達が高校教育を受ける機会を与えている、素晴らしい日本の教育制度だと思っています。また、卒業して20～30年経ってもリカレント教育を受けられるように、やり直しがきくのです。ですから、あまりに全日制高校に近付けようとする事自体が、今の子ども達に合っていないのではないのでしょうか。できるだけそういう良さを見直して、色々な事情を抱えた子ども達が救われて行くような学びの機会が与えられるようなシステムを大事にして欲しいのです。今はある程度地域バランスがとれているのではないのでしょうか。日本の中でも、青森県は人口の割に定時制高校が多い方だと思うのですが、多いから良いではありませんが、それだけ定時制と通信制に重きを置いてきた事は高く評価したいと思っています。こういう時代だからこそ、問題を抱えた子ども達が学ぶ機会を是非確保して欲しいです。

豊川委員長

ある事に反対は無いと思うのですが、問題は今ある学校が全部必要かどうかだと思います。何か意見はありますか。

C委員

黒石高校、弘前中央高校、尾上総合高校が比較的近いですね。

豊川委員長

その辺りが少し問題だと思います。色々事情のある生徒が多いので必要だとは思いますが、本当にこれだけ必要なののでしょうか。現在は収容人数がかなりありますので、整理整頓が必要ではないかという気がしますので、そこだけ決めてもらえばいいと思います。

C委員

距離的には、中南地区の弘前工業高校、弘前中央高校、黒石高校、尾上総合高校、五所川原高校が比較的近いです。

豊川委員長

その地区は交通の便もいいですし、整理してもいいのかもしれない。

C委員

青森市では青森商業高校から無くなったのですね。

## B 委員

資料に出っていますが、まとめるという言葉が適切かどうか分かりませんが、各地域を考慮しながらある程度まとめた方がいいと思います。特に青森県は定時制について手厚いなと思います。東北地方では各県1校くらいの形です。岩手県、山形県、福島県も数は少なくなっています。経費はかかるのですが青森県はいいとも思いますが、ただこの資料にあるような形をたたき台にしてもいいのでは、という気持ちもあります。

## A 委員

皆さんの意見と同じですが、青森県は地形的に複雑なのでセンター試験も青森市、弘前市、八戸市、十和田市、むつ市で行い、五所川原市も要望しています。そういう地域性で交通の便が不便な所があるので、意味があって作っていると思います。なおかつ青森県の場合は学習環境が首都圏と全然違い、高卒認定試験を自分で受けられそうな生徒はそんなにはいませんので、どこかで学習を補助してくれる所が絶対必要なのだと思います。それが通信制であったり定時制であったりする訳です。そこで単位を取り上級の学校を受ければいいのですから、そういう道を残すため、学習環境を補助するためにも、規模の大小は考えながらも残すべきだと思います。中南地区の場合は、弘前市から黒石市はバイパスができて15分くらいの距離ですが、問題は尾上総合高校です。2学級の総合学科なのですが、校長からも2学級は厳しく、色々な口座を設けたいが難しい、という話しを聞いています。尾上総合高校を無くするのか、より大きい規模にするのか、そこは全体の問題に入ってくるので分かりませんが、生徒が集まりやすいのは弘前市なので、弘前中央高校に昼間の定時制を置くのが非常に便利だと思います。そうすると、ますます尾上総合高校が昼の定時制が無くなり小規模にならざるをえないので、その辺の調整が問題として残ります。

## C 委員

昔は通信制は野辺地高校と弘前高校にありました。弘前高校にあった時は比較的在籍数が多かったのですが、それが尾上総合高校に移ってしまいました。尾上総合高校側からすると、定時制と通信制が一緒になって非常にメリットがあるのですが、本来は弘前市にあった方がいいという感じはします。やはり、青森県の場合は通信制が非常に良いのです。北斗高校1校だけに見えますが、実質は八戸中央高校と尾上総合高校に分室があり3箇所ネットワークされていますので、いいシステムだと思います。後は、定時制と通信制の連携的な部分がより具体化されたいと感じます。皆さんが言っているように、中南地区の配置が解決されると全県的に網羅していると思います。

## 豊川委員長

中南地区だけで、後の地区はいいですか。

### C 委員

後は無くしたら大分困るのではないですか。

### 豊川委員長

中南地区を整理すればいいという意見ですが、異論はありませんか。

### B 委員

工業については2つ意見があるのです。切り離して考えるといいのかもしれませんが、生徒数が少なくなっている事と、全日制に行けなかった子が入っているという事が現実としてあります。特に八戸工業高校では1学年8～10人くらいで非常に少ないのです。それを今まで電気科と機械科に分けていたのを、工業技術科1学級にしたのです。確かにニーズ的に見ると、前から話していますが八工大一高と光星学院が工業科を抱えているので希望するならそちらに行けるのです、勿論両校とも歴史がありますので、ここは廃止してもいいのではないかという気持ちがあります。青森工業高校と弘前工業高校についても、3～4年前に出された定時制と通信制の在り方の事が頭にあるのですが、1学年1学科にしてコース制を採って卒業させようと考えて今は残していますが、入り口と出口を考えると、つまり本当に工業高校を希望している生徒なのか、就職先がないという現実を考え合わせると、何とか全日制高校で頑張った方がいいのではないかという気がするのです。

### A 委員

工業高校の定時制に、全日制や他県から転入したという事はないのですか。

### B 委員

ほとんどないです。全日制で単位が取れなかったので勧められた生徒が1人いたのですが、結局夜間部に行くのは非常に格落ちな感じがして恥ずかしいという事でした。他に問い合わせがあるのは、普通高校で退学になりかけている生徒の転入の問い合わせで、結構入っています。読替ができるものとできないものがあるので、単位数を見ながらどこに入れるかを考えています。

### 豊川委員長

商業高校の定時制が無くなったので、工業高校しか専門高校は無くなりました。これも仕方がないと話をしているのですが、話しが別かもしれませんが、専門高校の定時制が必要なのでしょうか。

### B 委員

効果は分かりませんが、例えば八戸中央高校1校に絞って、その中に選択科目コース

として工業技術コースを設けて、八戸工業高校の施設設備を借りてやる事も考えられます。八戸工業高校と場所的に近いですから。教員の配置がどうなるかは、現場としては考えてしまいますが。弘前中央高校と弘前工業高校も近いですし、北斗高校と青森工業高校も移転しなければ近いです。そういう発想もありますが、そこは分かりません。

豊川委員長

そういう意見もあるという事でいいですね。定時制について意見をいただきましたが、やはり必要だが整理する事が必要だと思いました。それでいいですね。

D委員

青森工業高校、弘前工業高校、八戸工業高校が1学年1学級になったので教員が少ないものですから、専門科目での実習の授業展開が厳しくなっているようです。1学級で展開するのは非常にきついという話です。

B委員

私は楽だと思いました。と言うのは、生徒数が少なくて更にコースに分かれると生徒数がかなり少なくなるので、全日制から見ると定時制の工業の配置は恵まれていると思いました。

事務局

今は学級数が減ってかなり人数が絞られました。

D委員

高教研定通部会の研究大会では、凄く厳しくなっていると話されていました。

B委員

弘前工業高校は3学級から1学級ですか。

D委員

工業高校には、旋盤の台数など設備・備品にも事情がありますので。

豊川委員長

定時制の話はこれくらいで終わりにします。

最後に、全県的視野での適正な学校配置について少しだけでも入りたいと思います。

【各委員が、適正な学校規模・配置に係る各自の私案について意見交換をし、この事については事務局で整理し、第5回第1専門委員会で検討する事とした。】



豊川委員長

それでは、今日はこれで終わります。

閉会

司会

次回の会議については皆様の御都合もあると思いますので、日程を確認・調整の上、改めて日時会場等の詳細につきまして、文書にてお知らせさせていただきます。

以上をもちまして第4回第1専門委員会を閉じさせていただきます。本日はありがとうございました。